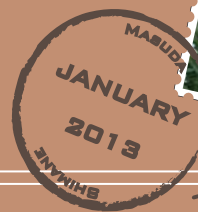


# 益田 PLUS 景観

Masuda PLUS+ Keikan



特集

益田・高津地区の景観発見

## 通りのある景観

連載

知りたい！

近畿大学都市計画研究室の取り組み

3 ワークショップとは？

景観塾

3 景観遺産指定制度

(岐阜県大垣市)

景観を支える人達

4 金谷自治会

Take Free

ご自由にお取りください。

ますだ  
景観  
きんだい

この情報誌は近畿大学建築学部都市計画研究室が作成しています。平成 21 年度から大阪の学生が益田を訪れていますが、益田の人々にとって当たり前風景も、近畿大学の学生である私たちにとっては、特別な素晴らしい風景なのです。益田景観に対して取り組みを行なう市民の方々や、私たちがこれまでに取り組んできた活動の紹介、益田で感じた魅力を情報誌に収めています。

# 通りのある景観

どこの町にも、多くの人が行き交う「まちの中心となる通り」が存在します。城があった場所には、城に向かう道が、そして神社や寺が町中にある所には、その参道が、町の顔の一つとなります。

益田の中心部は城址や多くの寺社が存在し、当然のことながら参道や昔の面影を残す道も街中のいたるところにあります。

それらの通りは、神聖で厳粛な場所に一歩ずつ近づきながら、心を落ち着けていく空間が演出されています。時代を経ることに主要な道路が代わっていくこともありますが、それぞれの通りには、かつての面影が残っています。

今回はその一部を見ていきましょう。



2



1

## 七尾城通り

七尾城通りは、三宅御土居跡前から暁音寺前を通り、七尾山へと向かう通りです。歩いていると山を背景にして、歴史を感じさせる建物を見ることが出来ます。

暁音寺の鐘楼は、石積みでつくられた基礎堂々とした屋根が力強さを感じさせ、歩行者の目を捉えます。また、石畳に舗装された道路や、控えめな色調が用いられた電柱が黒瓦の町並みと調和し、かつての城への道を、効果的に演出しています。

## 萬福寺前参道

参道の入口にある石柱から門までまっすぐ続く参道を進むと、存在感のある朱色の門が目に見え、飛び込んでいきます。石畳で道路が整備され、格式ある参道の景観が整えられつつあります。



3



4

## 七尾町清水地区周辺

古くからある木造二階建ての赤瓦の建物が、数多く残る地区です。比較的道幅が狭く、道を挟んだ建物同士の距離が近いいため、特徴的な景観をつくりあげています。少し路地に入ると、堂々とした構えの料理屋などがあり、かつての繁栄を今に伝えています。



6



5



7

## 柿本神社前参道

通りから神社の方を見ると、鳥居とその先に続く階段、小高い山に建つ神社の赤瓦が一直線に見ることができ、印象的です。

また、通りの両側に建つ建物は、歴史を感じさせるものが多く残っています。軒・庇の揃った、赤瓦の二階建ての建物が並び、歩行者の視線を通りの先にある神社へと誘います。



8



9



10

- 1 七尾城通りと暁音寺
- 2 暁音寺の鐘楼
- 3 萬福寺の門
- 4 萬福寺参道
- 5 昔ながらの民家  
(七尾町清水地区周辺)
- 6 風格ある料理屋
- 7 町並み  
(七尾町清水地区周辺)
- 8 柿本神社
- 9 軒が連続する家並み  
(柿本神社前)
- 10 柿本神社前の町並み

知り  
たい!

## 近畿大学

# 都市計画研究室の取り組み

近畿大学都市計画研究室の、景観に対する取り組みを紹介します。

## ■都市計画研究室の活動

近畿大学都市計画研究室（以下：研究室）では益田市から委託を受け、平成二十六年年度の益田市の景観計画策定に向けて、様々な活動を行っており、益田の景観の魅力を地域の人が再発見できる機会をつくり、益田独自の景観が守られるように支援しています。今回は、その活動の一つである「景観ワークショップ」の内容について紹介します。

## ■景観ワークショップとは？

益田で行っている「景観ワークショップ」は、地域の人々がまちの景観について、話し合う場です。普段、自分のまちの景観について語り合う機会はなかなか無いと思います。しかし、ワークショップを通して話し合い、景観を見つめ直すことで、見慣れた風景の魅力を再発見することが期待できます。研究室では、平成二十二年度から平成二十四年度の間に計八回のワークショップを行ってきました。

大阪の学生が企画・運営することで、地域の人でも発言しやすくなるため、毎回多くの方に参加いただいています。

## ■景観ワークショップの内容

ワークショップは、班に分かれて進行していきます。一つの班は、四、五名の参加者と、テールリーダー（班の進行役）を務める学生で構成されます。

ワークショップでは、基本的にまち歩きを行い、その後班で話し合いを行います。

班での話し合いでは、まち歩きの際に見つけ

た発見を整理し、改善提案を考えていきます。地域内の人だけでなく、私達学生や地域外の人とまちを歩くことで、様々な視点での景観の魅力や課題が見つかります。

会の最後には、各班の意見を会場全体に発表します。自分の班で出ていなかった意見が他の班で出されていることもあり、全体発表で新たな気づきを得ることがあります。

ワークショップの手法は様々で、まち歩きをし、その際ポラロイドカメラで景観を撮影する方法や地図に発見を記入していく方法、また、まち歩きができない場合は、写真を見ながらみんなで話し合う方法：などもあります。開催地や話し合うテーマによって手法を変化させているので、複数回参加する人でも、毎回新鮮な気持ちで話し合うことができます。

みなさんも、見慣れた景観の魅力を再発見しに、景観ワークショップに参加されてはいかがでしょうか？

- 1 班での意見交換
- 2 全体発表の様子
- 3 まち歩きの様子



## 景観塾

全国の景観行政団体で設けられている制度を参考に、益田の景観について考えましょう。

今回紹介する  
景観の制度

## 景観遺産指定制度（岐阜県大垣市）

岐阜県大垣市では、市民が将来に残したい景観だと感じる建造物や風景などを『大垣市景観遺産』として指定しています。

大垣市は、揖斐川が市の東端を流れており、地下水や湧水が豊富で、古くから「水都」と呼ばれてきました。また、松尾芭蕉が「奥の細道」の旅を終えた「奥の細道むすびの地」であり、江戸時代の重要な港でもあった「船町湊」など、交通・文化の交流点としても栄えてきました。そのほかにも、旧街道沿いにある宿場町の風情を醸し出す建造物や、産業の支えとなった鉄橋やダム、山林や渓谷など様々な景観を有しています。

しかし、都市の市街化・開発とともにこれらの良い景観が失われてしまうことが危惧されます。そこで、後生に伝承すべき重要な景観資源の保存・活用を推進し、地域での景観まちづくりに活かしていくため

に、平成22年度から『大垣市景観遺産』の指定がはじまりました。景観遺産は、市民に「ふるさと大垣の残したい景観」にふさわしいものを募集し、大垣市景観遺産審議会で審査されます。これまでに60件が指定されています。

平成24年度には、景観遺産の写真に触れながら遊び、学ぶことができる、『大垣市景観遺産トランプ』が作成されました。このトランプは、今後地域への愛着や誇りを育むための「ふるさと学習」や市の紹介に活用されるそうです。

益田市にも将来に渡って残していきたい景観資源がたくさんあります。大垣市の事例のように、重要文化財に指定されていなくても、市民で守り、活用していくための方法を考えてみましょう。

参考・出典：大垣市ホームページ  
<http://www.city.okazaki.jp/>



▲大垣景観遺産：遺産船町湊跡と奥の細道むすびの地



▲景観遺産トランプ



▲大垣景観遺産：大垣城

益田市内で活動している景観活動団体を  
紹介します。

日本の原風景

「金谷の景観」を守る

金谷自治会の取り組み

里山を守る会 大石 康人 氏

美都町金谷地区では、地域の桜が病気になることをきっかけに、地域の人が桜の存在の大きさに気付き、桜を守る活動を行うようになりました。桜が回復した後は、美都の柚子など地域の特産物の栽培、商品開発などや、棚田の維持・管理を行い、地域外への情報発信なども積極的に行ってきました。高齢化と人口減少で集落の存続に不安がある中、集落全体の環境を守る活動へと発展した自発性と、益田の原風景を守っているという点が評価され、昨年度の益田市まちづくり景観賞ではグランプリを受賞しています。

金谷地区は、春には桜、夏は木々の緑、秋は柚子、冬は雪景色という風に、四季折々の景観で人々を楽しませてくれます。地区の人は、景観を守ることとはあまり考えていなかったものの、先代から受け継いだ田や畑など、今あるものをきちんと守っていることが結果的に、「金谷の景観」と呼ばれるものをつくりだしました。グランプリ受賞後は益田市内での知名度が上がり、以前から農作業の手伝いに来て

いた広島の家族に加え、市内からも「草刈りを手伝いたい」という方がたくさん訪れています。

金谷地区は現在三世帯四人、高齢化が進んでいる集落です。また、「地滑り危険箇所」に指定されており、新しく住宅を建てられないため、新規居住者も迎えにくい状況です。しかしこれからも、訪問してくださる方と協力しながら金谷を守り続け、次の世代につなげていきたいと考えています。

今後は、島根県の景観賞にも応募し、全国に農村の原風景として「金谷の景観」をアピールしていきたいと考えています。



- 1 山に囲まれた金谷の集落。
- 2 柚子の木は、夏には白い花をつけ、秋から初冬に黄色い実をつける。金谷の景観を彩る重要な要素の一つ。
- 3 金谷に春の訪れを告げる桜。桜目当てに、美都町外からも多くの人を訪れる。

表紙の絵

表紙を飾る、どこか懐かしさを感じさせる絵は、益田東高等学校美術部生徒の作品です。美術部の作品には、益田の何気ない風景の魅力が表現されています。

「古の里 益田」

画・文：有福 亮

この絵は益田にある古い街並みを想わせる場所を描いたものです。旧益田地域には、まだ木造の建物が多く、木独特の温もりを感じます。最近は洋風の家が建ち、昔の面影が少しずつなくなってきました。歴史あるこの益田の風景を、いつまでも残し、伝え守ってほしいと思っています。



次号予告

益田景観 春号

Masuda PLUS+ Keikan

次号は、本年度の締めくりとなる最終号。1年間のまとめと併せ、平成24年10月から平成25年1月にかけて計5回行われた「景観ワークショップリーダー育成講座」を特集します。ぜひご覧ください。



【制作】

近畿大学 都市計画研究室

〒577-8502

大阪府東大阪市小若江 3-4-1

都市計画研究室ホームページ

<http://urbanlab-kindai.main.jp/>

都市計画研究室ブログ

<http://urbankindai.blog84.fc2.com/>